御入院の旅を得て歎き入る事後しき程遠如何解
仰し雪に深く
先輩て神経喜弱まて弱りの由承り降て大きに
仰配致し早速一書の差出と存じ候しが、其以前
家神は例の草無精にて御出来し来じ候いくらい
てらなどゝ申しずけ、右ゝ御来し事ゝ御事
且年に治方にて御入会も相後の御
常に降りはいつでも甚だ斟酌し、いつの宵も大変日
を過し今はまで遠近を感じ候、再生の大
病と云ふ旅を有り、それが悟て家郷通信が新

逍遥用紙

日紙上に載りたゞめし常日なりし恐怖を生く是れ
青天の霹靂同様、去る歎き入る、此以前少生
或て御下氏に於ける事、若しこゝ御
御家様へ知らせては御りぬでないやしな事に居るの
多くそれはどこの気づかせて黄八と
於ける御きし姓里、其日は近氏に申し来訪ありて
雲海の御我少生知らせられる、すべて同一
日成おいて少生より御家様へ御り心配成かされぬ
やうな程度にて御病家の事并に我も「スグカヘレ」
と云ふ返電相送りし事一ゆゑ知らせ申ゆゑ

イ4特
2090
55(8)

逍遥用紙

14 神 2090 55(8)

色々に言ひなして居るが、されはすべて此度中
の事件に関しては右の君と協議し上如何
やうに取計ふへきか一応お相談すへきに付
西園寺様へ参りまして相談致し候ふ所
運びに候ふ所殊に我らは衆人一洗なから新しく
要領を得ざる所なく、海上より[illegible]
春ならし荒れ候時との考へにて[illegible]
帰る事は只今[illegible]此事[illegible]
聞こしめしける後に如何[illegible]
御座候

中人らしき[illegible]は[illegible]是非まて御[illegible]
その様態にて御座候[illegible]
との事[illegible]にて何[illegible]
[illegible]
無論[illegible]
まだにや添り
送り[illegible]

三月二十二日午後

雄

長谷川兄

逍遙用紙

イ14 2090 55(8)